

2026年 中国製LLMの台頭と日本企業の活用戦略：米国製との「並走」時代における地政学リスク管理

猛走る中国4大モデルの現状

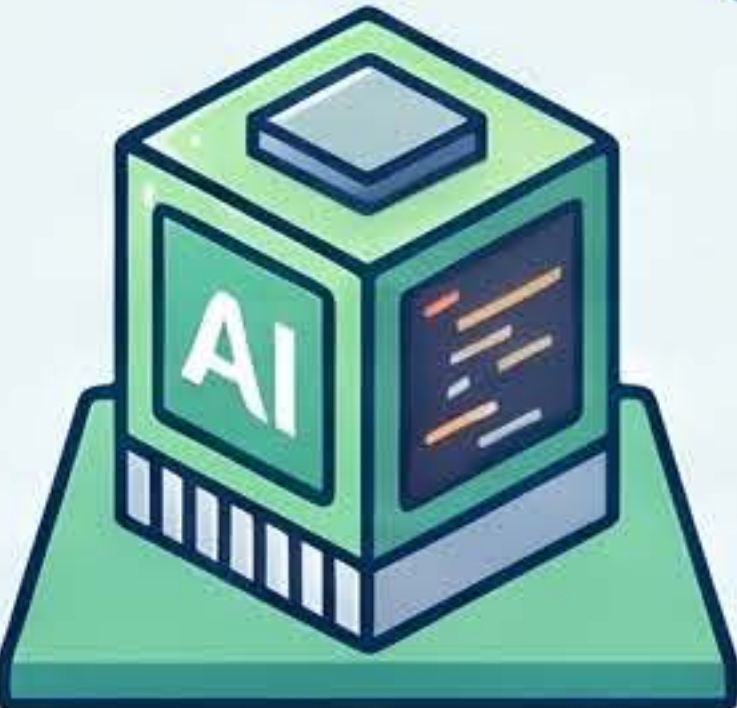


安さ
Kimi K3は世界4位の性能と評価され、GLM-5.2はコーディングの性能と評価され、GLM-5.2はコーディングでGPT-5.5を凌駕。コストは米国勢の数分の一を維持。



高性能かつ安価

米国勢との性能差はわずか2.7%
独立調査 (Stanford AI Index 2026) によれば、チャット性能における米中トップモデルの差は数か月レベルまで縮小。



Kimi K3

GLM-5.2

Qwen3.7 Max

DeepSeek V4 Pro



オープンウェイト分野の覇権
MITライセンス等で重みを公開する戦略により、中国勢が世界の開発エコシステムのデファクトを掌握。



Kimi K3
2.8兆パラメータ / 総合力世界4位
約 **1/2** (対Opus 4.8)



GLM-5.2
自律コーディング特化 / 世界3位国
約 **1/5**

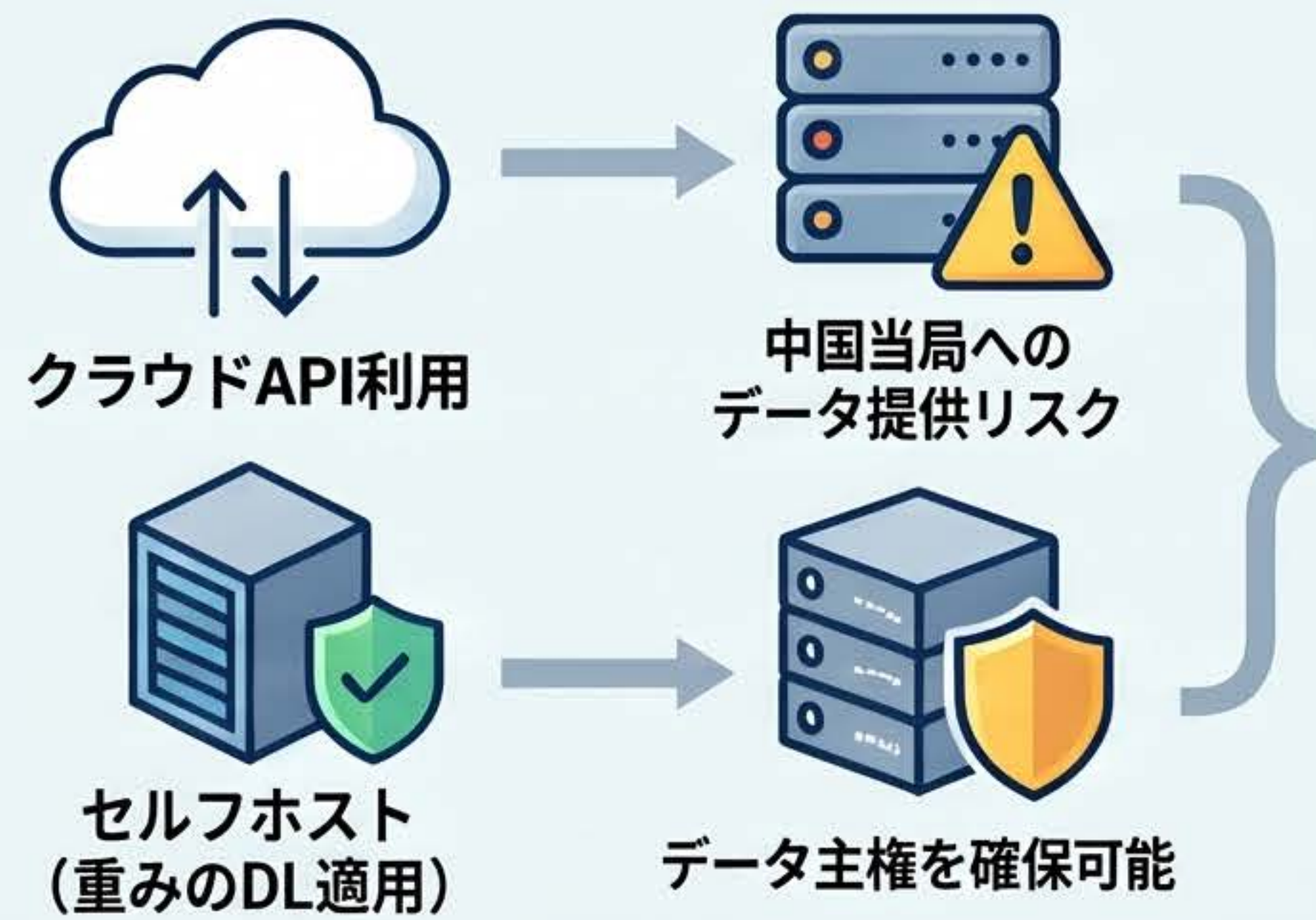


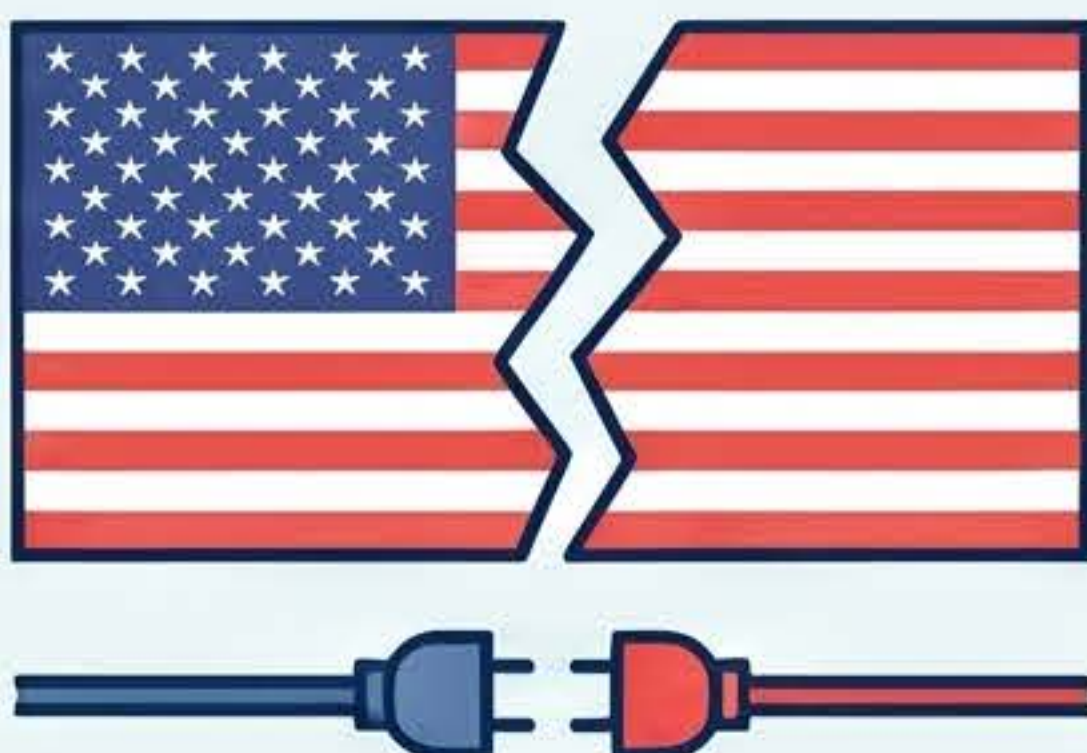
Qwen3.7 Max
35時間連続実行エージェント
約 **1/2~1/4**



DeepSeek V4 Pro
1.6兆MoE / 圧倒的コスト効率
約 **1/10以下**

日本企業が取るべき「ハイブリッド戦略」





米国製依存も「供給停止」のリスク

2026年6月の「Fable 5事件」では米国政府の命令によりAIが突如停止。単一法域への依存は事業継続リスク。

マルチモデル・ガバナンスの確立

